

資料紹介

軍人勅諭の成立と西周の憲法草案 (三)

梅 溪 昇

西周の憲法草案 (下)

編次大意

第三篇全ク国会ヲ論ス民人有リ君主有ルハ既ニ前之ヲ論スルカ如シ
而シテ其君主タル者其権力固ヨリ無限ナリ然レトモ一向ニ無限ニア
レハ遂ニ其天職ニ背ク事無キコト能ハス是ヲ以テ古今東西ノ史國ト
シテ興亡無キハ莫シ近世始メテ此有限君主政治ヲ發明シ以テ天職ニ
背ク事無カラシム是ヲ以テ遠水鑿ル事莫ラシムル所以ナリ本邦ノ如
キ上世ヨリ曾テ此際類ノ事無キハ(以上、朱筆、二十四頁上・右欄
外ニアリ)

第三篇 国 会

第一章 国会ノ組織

第、第、条 国会ハ大日本国民ノ代理者タリ
第、第、条 国会ハ元老院代議院ヲ以テ成ル

〔編次大意続キ〕

歷代(人皇) 聖主曾テ悖徳失行無キニ由ルナリ(ヲ以テスト) 然シ
(雖ヘトモ) 君主ノ権ハ既ニ藤原氏以降永ク臣下ニ移リ相門ノ政治
トナリ竟ニ式微ノ歎ナキ能ハサリシナリ然ルニ天ノ佑クル所維新ノ
大業振古類無シト謂フヘシ然レトモ君權ノ旺盛スルハ垂統ノ君ニ在リ
テ後世興亡ノ虞無キ能ハス若シ然ラスシテ君權旺セサレハ後世人臣
ノ中何等ノ王莽何等ノ曹操ヲ生センモ測リ難シ是總國民ヲ以テ之カ
監視ヲナサシムルヲ勝レルニ若カス此ノ若クナレハ君權殊ニ旺盛スル
時モ桀紂ノ政ヲ見ルニ由ナク君權微ナルモ相家覇府ノ名分ニ反スル
者ヲ見ルニ由無キナリ今總國民ニ監視ノ權ヲ付スルハ国会是ナリ是
聖諭ヲ奉シテ永ク国基遠永不動ニ立ラレン事ヲ期望スル所ナリ
第一章ハ即其組織ニシテ急漸ニ進歩次序ノ二政論銳意退守ノ二政究
ヲ調和シテ其中和ヲ得セシムル方法ヲ(所以ナト) 確定シ第二章第
三章ハ各自ニ(自カ) 任務ノ綱領ヲ確定シ第四章ハ通シテ其規制ヲ
確定シ第五章ハ此国会ノ首任タル三權ノ一即立法(權ヲ) 方法ヲ確
定シ君主ハ立法官ト相協議シ国内ノ公法ヲ立定スルヲ言フ(以上、
朱筆、25頁右・上・左欄外ニアリ)

第、第、条 元老院議員ハ勅ニ因テ選任ス(定期無シ) 其選ニ腐金

ル者ハ

第一皇族 第二華族 第三奏任以上ノ官吏 第四曾テ奏任以上ノ

官ニ任シタリシ者 第五陸海軍武官少佐以上 第六学士若クハ技

術者在野無位モ可ナリトス

其員モ亦定限無シ一ニ上意ニ依ル但歳四十歳以上タルヘシ

……………〔折目〕……………

〔編次大意続キ〕

其第六章ハ立法上ニ殊ニ付帯シタル其枢機ノ官制并ニ枢要ノ方法ヲ

確定ス蓋シ会計検査院ノ精算ト予算表トハ政器ノ枢機管鑰ニシテ一

夕ニ此枢機ヲ過リ管鑰ヲ失スレハ万法皆徒法ニ屬スレハナリ〔以上、

朱筆、二十五頁右欄外にあり〕

第、条 代議院ノ議員ハ国内ノ各選挙区ニ住スル成丁満限以上ノ

人民全ク国民公私ノ權ヲ享ケ直税五円以上ヲ納メル者選挙令ニ準

シテ選ヒタル者タルヘシ

第、条 代議院議員ノ員ハ人口ニ依テ之ヲ定メ十万人ニ就テ一人

ノ比例トス

其他ノ例規ハ撰挙法ニ依リテ之ヲ定ム

第二章 元 老 院

第、条 元老院ノ議長副議長ハ勅ニ依リ選任ス

第、条 議官ノ任期ハ五年トシ既免ノ者モ復任スル事ヲ得

二十五
265

議官ハ就任ノ初ニテ 玉座ノ前ニ於テ誓言ヲナシ畢リテ其書ヲ玉
座ニ捧ス

第、条 皇族華族ハ無給トス他ノ議官ハ加給ヲ享ク月三百円ヲ以
テ率

テ率

……………〔折目〕……………

トシ会期間ノ月ヲ計リ官吏ノ祿此額ニ上ラサル者ハ之ヲ加へ上ル

者否セ(サ)ス無給ノ者ハ全ク之ヲ給ス

第三章 代 議 院

第、条 代議院ノ議員タルヘキ者ハ大日本國(人) 民公私ノ權ヲ

全享シ歳滿三十年以上タルヘシ納税限ハ選挙人ニ同シ

同時ニ元老議官代議院議員ノ選ヲ得若クハ府県全議員町村會議員

ノ選

ヲ得タル者ハ上級ニ從フヲ法トス辞スレハ共ニ之ヲ罷ム

二十六
27

第、条 代議院議員ハ四年ヲ以テ任期トス此議員ハ二年毎ニ其半

數表面ニ從ヒ新任議員ト交代シテ退任ス其退任シタル者モ再ヒ選

挙スルヲ得

第、条 代議院ノ議員(班)ハ各誓言ヲ守リ其真心ヲ以テ表言ス

之ヲ選挙シタル者ニ制肘セラル事無カルヘシ

……………〔折目〕……………

第、条 就任ノ初ニ当リ先廉潔ノ誓言ヲ表シ次キテ本誓ヲ宣ス此

誓言ハ其書ヲ王座ニ捧ス然レトモ 天皇ヨリ其議長ニ全權ヲ假ス
時ハ此ニ呈ス

第、条 代議院ノ議長ハ毎年開院ノ初院中ヨリ奏上シタル三名ノ

中ニ就テ 天皇其一人ヲ選ヒ勅任ス

第、条 代議院議員ハ各年開院毎ニ往來ノ旅費トシテ距離ニ從ヒ

法律

二十七

ヲ以テ定メタル金額ヲ受ケ猶賠償トシテ毎年^{〔國庫〕}ヨリ三百円ノ金
額ヲ受ク但シ此賠償ハ開院ノ間不在タリシ議員ハ受クル事ヲ得ス

第四章 国会 通規

第、条 何人ヲ論セス同時ニ兩院ノ議員ノ議員^{〔班〕}タルヲ得ス

第、条 各省ノ長官ハ兩院ニ座ヲ占メ評議ノ權ヲ有シ可否決ニ參

セス

各省ノ長官ハ國ノ利益安寧ニ戾ラスト思量スル事ニ於テハ兩院ノ

需ニ応シ口頭若クハ書面ヲ以テ其解説ヲナス^{〔シ〕}

.....〔折目〕.....

是カ為ニ其参会ヲ要スル時ハ兩院ヨリ之ヲ請スル事ヲ得

第、条 代議院ハ探討ノ權ヲ有ス其詳委ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第、条 国会ノ議員ハ大審院ノ僚員檢事會計検査^{〔統計〕}院ノ僚

員府知事県令ヲ兼任スル事ヲ得ス又宗教ノ教法類タルヲ得ス

常^{〔現〕}備軍ノ武官ハ兩院ノ議員タル間ハ其權分ニ於テ非職ナリ

其列ヲ去レハ旧ニ復ス

二十八

選舉會首任^{〔座〕}ノ官吏ハ其選舉区ニ於テ被選^{〔ノ議〕}員タル事
ヲ得ス

国会ノ議員一定ノ官吏ニ拜命シ若クハ昇進シタル時ハ一旦議員タ
ルヲ罷ム然レトモ直チニ重選セラルル事ヲ得

第、条 兩院ノ議員ハ現行犯罪ヲ除クノ外会期中并ニ其旅^{〔上〕}
路ニ上ル^{〔ノ〕}日ヨリ
.....〔折目〕.....

歸家ノ後マテハ拿捕スルヲ得ス又下院ノ允許無クシテ刑法ニ觸レ
タル為ニ裁判所ニ呼出スヲ得ス

又要償ノ為ニ議員ニ禁錮ヲ宣言シ其捕牒ヲ付スルヲ得ス

第、条 兩院ニ於テ^{〔ノ議員〕}ハ各其新入議員ノ任記并ニ履歷書

ヲ檢覈シ^{〔ス〕}其任記若クハ選舉ニ就テ生シタル爭論ヲ裁決ス

第、条 兩院ハ^{〔ノ〕}其議員ノ外ニ書記官ヲ命ス

○増補

第、条 兩院ハ一個人若クハ一定ノ会社ヨリ建白書ヲ受クルノ權
ヲ有ス其採否ハ必応答ヲ要セス請願書ハ之ヲ受クルヲ得ス

第、条 国会ハ毎年一回ハ之ヲ開ク
通常会期ハ毎年九月某日トス

天皇ハ之ヲ須要ナリト思量シ給フ時ハ^{〔臨時〕}ニ兩院ヲ召集シテ

二十九

臨時会期ヲ開ク

(第、條) (兩院ノ會) 期ハ終始ノ時限(間)ヲ開クス其一院ヲ解散セシメタル時ハ後任ノ議員來集スルマテ他ノ一院會議ヲ中止ス(ヲ開カス)

第、條 兩院ノ會議ハ各自ノ會議ト會同トヲ問ハス公行トス

兩院ハ其日ノ會員十分ノ一傍聴ヲ禁セント請フ時又ハ議長之ヲ必要ナリト

……………〔折目〕……………

思フ時ハ秘密會議ヲナス

其秘密會議ニ於テスヘシ(キ)ヤ否ヤモ亦會議ニ因テ之ヲ決ス

秘密會議ニ於テ議シタル事件モ亦決議ヲ取ル事ヲ得

第、條 天皇學藝若クハ内禪ニ際シ會其開會ニ至ラサル時ハ召集ヲ待タスシテ會集ス此臨時会期ハ晏駕若クハ禪位ノ後第十五日ニ

之ヲ開ク

三十

兩院解散ノ時ニ際シタル時新選舉ヲ終リタル日ヨリ其期日ヲ數フ

第、條 国会ノ会期ハ兩院ノ合同ニ於テ天皇若クハ天皇ノ代理之

ヲ開ク 天皇利益ノ為ニ会期ノ久シキヲ要セスト思量シ給フ時ハ

閉會ニ至ル其式亦開會ノ時ノ如クス

(天皇解散ノ權ヲ執行シ給ハサル時ハ) 通常会期率ネ二十日ニ降

ラス但天皇第、條解散ノ權ヲ執行シ給フ時ハ別ナリ

……………〔折目〕……………

第、條 (天皇ハ) 国会ノ兩院若クハ一院ニ(ノ) 解散ヲ命スル

(シ給フ) 時ハ併セテ国会ノ閉會ヲ命ス(シ給フ)

第、條 兩院ハ各自ニ於テモ會同ニ於テモ議員ノ出席半數以上

(ヨリ) ニ至ルノ外評(論) 議決定スル事ヲ得ス

第、條 凡ソ決ヲ取ルハ表言ノ過半數ヲ以テス

表言ノ黙止ニ際シテハ其決ヲ次(後) 會ニ延ハス

此ノ如キ會合又滿數出席ノ會合ニ於テ表言ノ黙止ハ發題ノ議案ヲ

斥クルヲ示ス

第、條 凡ソ評議ハ声ヲ掲ケ名ヲ呼ヒテ表言セシムト雖ヘトモ人

員ノ選舉指名ニ於テハ暗票ヲ以テス

第、條 兩院ノ合同ニ於テハ之ヲ一議會ト視做シ其議員ノ座位ヲ

占ムルハ兩院ノ別ヲ存セス

……………〔折目〕……………

合同議會ノ議(首)長ハ元老院ノ議長ナリ

第五章 立法 權

第、條 立法權ハ天皇国会ト合同シテ之ヲ行フ

第、條 天皇ハ法律ノ議案タルト他ノ發題議案タルトヲ問ハス之

ヲ代議院ニ下付シ給フ(ス) 其下付ハ理由ヲ解陳スル宣言ヲ以テ

シ或ハ委員ヲ以テス

第、条 凡ソ下付ノ議題ハ定時ニ抽籤法ヲ以テ更選スル院内ノ諸

課ニ

三十二

於テ先ツ商議討究シタル後之ヲ總會議ニ付ス

第、条 兩院共ニ下付ノ議案ニ就テ改竄ヲナスノ權ヲ有ス

第、条 代議院ハ其議案(ノ)改竄ノ有無ヲ(ニ)論セ(拘ラス)

ス決議ニ至レハ例文ヲ付シテ元老院ニ移ス

代議院其議(例)案ヲ斥ケラレタル時モ猶(不明) (例文)依リテ

天皇ニ奏聞シ猶其議案ニ)代議院ハ之ヲ嘉納セサル旨ノ例文ヲ

(是ニ就テ奏聞シタル旨ヲ)付シテ元老院ニ移ス

.....〔折目〕.....

第、条 元老院ハ第、条ニ準シ其議案ヲ議ス

(其)代議院ノ採納シタル議案元老院ニ於テモ同シク採納シタ者

ハ例文ヲ付シテ之ヲ天皇ニ奏聞シ(ス)其旨ヲ代議院ニ通知ス

代議院ノ採納セサル議案ニ於テ同シク採納セサル者ハ先ツ代議院

ニ其旨ヲ通知スル後兩院共ニ再思(嘉納)ヲ請フ旨ヲ以テ例文ヲ

付シテ天皇ニ奏聞ス

三十三

兩院ノ採納セサル議案ハ其会期中ハ繳納ニ屬ス

第、条 代議院採納セスシテ元老院ニ移送シタル議案元老院ノ會

議ニ於テ改竄修正ヲ加ヘ採納スヘシト決シタル時ハ之ヲ(其旨)

加ヘタル上ニテ其旨ノ例文ヲ付シ代議院ニ還付シ再議ヲ求ム

其再議ニ於テ可決スル時ハ其旨ヲ記スル例文ヲ付シ直チニ之ヲ奏
聞ス(不明)

其再議猶否決スル時ハ兩院同數ノ委員ヲ設ケ其諧同セサル点ニ就

テ商

.....〔折目〕.....

議ヲ遂ク猶諧議ニ至ラサル時ハ論点ノ何辺ニ在ルヲ討究シ其帰着

ヲ求メ其論点帰着スル所固權法理凡ヘテ政令ノ須要ニ関スル者タ

レハ(ル時ハ)元老院委員ノ表言ニ加一ノ權ヲ与ヘ帰着スル所租

稅債負財政凡ヘテ民力ノ支否ニ関スル者タレハ代議院ノ表言ニ加

一ノ權ヲ与フ

然レトモ其帰真スル所混合判ス可ラサル者ハ各(天)其論弁ヲ書

記シ奏聞シテ聖斷ヲ仰ク

三十四

凡ソ兩院改竄ノ点ニ於テ支吾ヲ生スル時モ亦此法ニ依ル

其諧議ニ至ル者皆例文ヲ付シ奏聞ニ供ス

第、条 國會ハ法律議案ヲ 天皇ニ奏上スルノ權ヲ有ス

此起草ノ權ハ特ニ代議院ニ屬ス

其決定移送奏聞ノ法ハ下付議案ニ異ナル事無シ

然ルニ此議案ハ元老院ノ採納ニ依ラサレハ奏聞ニ至ラス又其会期

中ハ再議

.....〔折目〕.....

ニ至ラス

第、条 法律議案ヲ除クノ外兩院ハ各自ニ其他ノ創議ヲ 天皇ニ
奏聞スル事ヲ得

第、条 天皇并ニ国会採納シタル法律議案ハ大日本國法トナル而
シテ天皇(王) 其公布ニ任ス

國法ハ干蹟スヘカラス

(三) 二十五

第、条 國法公布ノ方法及國法執行ノ力ヲ得ルノ期限ハ法律ヲ以
テ之ヲ定ム

國法ノ公布ハ左ノ例文ニ依ル

〔案範〕 天津御神皇太神ノ御靈ノ恩 津洲々ノ皇オ

ニ頼リ天津日嗣知ロシメス(案) サヒコノ尊ノ(折狐マ) 恭

天祐ニ頼リ万世一系ノ宝祚ヲ踐メル大日本國天皇(御) 名) 恭

コノ大ブミヲウケ玉 イマシク イリ玉
ハリウケ玉ハリナン ニヒトラ ハク
シク此公文ヲ通覽スル汝有衆ニ語ク云々 参事院ノ議ヲ経國
会トノ通(卜諧) 議諸同ニ依リ云々年月日東京太政
官等

第、条 一般政令ノ例規モ公布ノ方法執行ノ期限ハ亦法律ヲ以テ
之ヲ定ム

.....〔折目〕.....

第六章 會計検査院并ニ歳計予算表

別紙
スヲ入ル

第、条 凡ソ國費ノ予算ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ併セテ支費ノ方法
ヲ決定開示ス

第、条 歳(國) 計予算表ノ議案ハ連年該予算ニ対スル前會計年
度ノ前半期(年) 中ニ於テ国会ノ通常開期ノ初直チニ大政官ヨリ
代議院ニ下付ス

〔右二箇条ノ上ニ符箋シテ左ノ二箇条アリ〕

第、条 會計検査院ノ設置并ニ其権限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

(天皇ハ) 其僚員ノ欠クル時ハ国会ノ代議院ヨリ推薦スル三名ノ
應選人ニ就テ天皇之ヲ勅任(補) ス

第、条 會計検査院ノ僚員ハ終身其職ニ任ス其俸祿ハ以テ之ヲ定
ム

第、条 歳(國) 計予算表ハ其一章内ニ官省院使等一部ノ費用ヲ
特記シ他ト

混合通記スルヲ得ス (三) 二十六
支費ノ各章ヲ以テ一個若クハ數個ノ法案トナス(シ) 其支費ヲ転
移スルハ唯法律ニ依リテノミ之ヲ許ス(為ス事ヲ得)

第、条 各會計年度ニ於テ出納(入) ノ該当ナル事ハ會計検査院
ノ查覈ニ於テ之ヲ認可シタル上其簿冊ヲ併セ立法官ニ送付ス。

出納精算ノ差額ハ法律ヲ以テ之ヲ整頓ス

.....〔折目〕.....

〔編次大意〕

一 国ノ組織ハ鷲結晶ノ法六稜ノ水島ハ細分スルモ亦六稜ナリ第四篇第一章ヨリ第三章ニ至ル亦會議ヲ以テ税入費出方法ヲ定ム然レトモ通国一般ノ法律ヲ立ツルニ非ラス唯其法中ニ就テ行政上ノ方法ヲ議定スルノミ是其以テ国会ニ異ル所以ナリ(以上、朱筆、二十七頁上欄外ニアリ) 府県会并ニ府県郡区町村ノ管理法ニ就テ本邦既ニ成典アリ草案者亦甚々其典章ニ通セス故ニ斯ク之ヲ省ク然レトモカノ(傍線モトメ)日耳曼種邑区自治ノ制即政府ト邑区ノ兩極ノ制ヲ立ツルニハ目今ノ制ハ許多ノ改正ヲ加ヘサルヲ得ス是異日ノ論題ニ付スベシ(同上、同頁下欄外ニアリ)

第四篇 府県会并ニ区郡町村ノ管理

第一章 府県会ノ組織

第二章 府県会ノ権

第三章 区 町 村 会

第五篇 司 法 権

第一章 大審院并ニ諸裁判所

編次大意

司法権ハ三大権ノ一而シテ其順序ハ立法ヲ立ツル者ハ正法ニ循ヒテ其政ヲ行フコトヲ得ス独リ法ヲ立ル一事ニ止マリ政ニ従フ者立法者

(三) 二十七
387

ノ法度ニ循ヒ其政ヲ行フ事ヲ得法ノ善惡可否ヲ論シ之ヲ(改) 変更スル事ヲ得ス而シテ若其方法ヲ違犯スル者アル時ハ執法者ハ他ノ二権ニ(以上、朱筆、38頁上欄外ニアリ)

第、一条 全帝國ニ最上等法(大憲) 衙(院) 一個所ヲ設置シ大日本大審院ト名ク

該院ノ僚員ハ下条應選人ノ姓名表ニ依リ 天皇勅シテ之ヲ選任ス

第、一条 大審院ノ僚員欠員有ル時ハ之ヲ国会ノ代議院ニ通知ス

天皇代議院ヨリ推薦(奏呈) スル五名ノ應選人姓名表中ニ就テ其

欠員ヲ補ス

天皇ハ大審院ノ僚員中ヨリ其議長ヲ選任ス而シテ大檢事ノ選任ハ

直チニ 天皇ニ屬ス

.....〔折目〕.....

〔編次大意続キ〕

関スル事無ク唯制定ノ法ヲ執リテ之ヲ判決シ(之) 此法ノ(無)

善惡可否ニ論無ク唯其犯罪ニ準スル法ノ当否ヲ知ルノミ是三大権分

割ノ本義ニシテ編次亦是ニ由ル然レトモ君主ハ此三大権ヲ統轄シ且

其義ノ發生モ土地人民ニ次ク者ナレハ君權ヲ以テ三大権ヲ首ニ置ク

所以ナリ而シテ立法司法ハ正ニ相終始スル者ニシテ始無ケレハ能ク

終ヲ成ス無ク終無ケレハ能ク始ヲ卒ハル事無シ是立法ニ次クニ司法

ヲ以テシテ其終ヲ完クスヲ示ス(以上、朱筆、二十八頁上・左欄外

ニアリ

第、條 大審院ハ官吏職務上ノ犯罪（ヲ審判シ）法律ノ為ニ糾彈ヲ受クルト代議院ノ劾告ヲ受クルトヲ論セス之ヲ審判ス（シ）其官吏ハ左ノ如シ

第一國會ノ議官議員 第二三大臣諸省ノ卿是ト同等ナル者 第三參事院議官 第四遣外國公使 第四府知事臬令 第六各省ノ局長及是ト同等ナル者

第、條 前條ニ掲クル所ヲ除キ他ノ（不明）外官（不明）吏職務上ノ犯罪（三）ニ於テスヘキ 二十八

〔編次大意続キ〕
〔第五條〕
此篇第一章司法ノ官制且立法行政ニ權ト相關スルノ度ヲ確定第二章ハ總ヘテ司法概則ヲ確定シ以テ第六篇憲法ノ修正ヲ以テ全部ヲ畢ハルナリ（以上、朱筆、39頁右欄外ニアリ）

ヤ否ヤハ法律ニ依テ之ヲ規定ス
第、條 天皇若クハ皇族ヲ被告トスル訴訟ハ大審院ニ出願ス然レトモ普通物件上ノ訴訟ハ普通ノ裁判所ニ於テス

第、條 大審院ハ訴訟ノ舉行裁決并ニ司法官法律遵守ノ上ニ監察ノ檢ヲ有ス

大審院ハ司法官ノ命令処分裁判法律ニ違背シタル時はカ為ニ定メタル法

……〔折目〕……

律ノ例規ニ準シテ之ヲ破毀ス

第、條 大審院ノ僚員大檢事控訴裁判所ノ僚員ハ終身官タリ
第二章 司法概則

第、條 民法商法刑法訴訟法治罪法及司法權（官）ノ組織ハ全國一般タリ
陸海軍律及其治罪法ハ別ニ（モ亦）法律ニ依テ之ヲ定ム

租税ニ関スル争訟及違令ノ裁判モ亦法律ニ依テ之ヲ定ム（三） 二十九

第、條 公益ノ為ニ私有ヲ収ムル（時）ハ法律ヲ以テ之ヲ布告ス
城壁ノ建築土堤ノ起工修補及伝染病其他緊急ノ境遇ニ臨ミ前文ノ公布ヲ（必）要セサル（スルニ）時機ハ一般ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

公益ノ公布及収取ノ賠償ハ戰時火災水溢ニ際シ不意（即時）ニ収取ヲ緊要トスル時ハ何人モ之ヲ要求スル事ヲ得ス然レトモ曾テ賠償ヲ請フノ權ヲ損毀（毀害）セス（不明）

第、條 凡所有權及其權（不明）ヨリ生シタル諸權利負債其他私（民）權ニ関スル
……〔折目〕……

訴訟ノ審理ハ特ニ司法權ニ屬ス
司法權ハ法律ニ定ムル特例ヲ除キテハ亦政權ニ関スル争訟ヲモ審

理ス

第、条 司法権ハ法律ヲ以テ定メタル判司特ニ之ヲ執行ス

司法権ト行政権トノ間ニ生シ得ヘキ権限抵触ノ裁判ハ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第、条 判司拿捕ノ命令(書)ハ拿捕ニ臨ミ或ハ拿捕ノ後速カニ

囚捕セザ

レタル者(人)ニ致スヘシ

三十四

判司命令ノ規式罪人糺彈ノ期限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第、条 特別ナル事情(時機)ニ際シ官ヨリ日本人民ヲ拿捕セシ

メタル時ハ之ヲ命令シタル者即時ニ之ヲ地方ノ判司ニ通知シテ三日以内ニハ是(之)ニ犯者ヲ解送ス可(ヘ)シトス(為ス)

刑事裁判所ハ其(其法規)ニ(之)カ為(ニ)所管内ニ此(嚴)法規

遵(ノ)嚴)行(ノ)嚴(スルヤ)否(不^{不明})ヲ監守ス(ヘ)

.....〔折目〕.....

(シ)

第六篇 憲法修正

第、条 凡此憲法ヲ修正セント欲スル時ハ国会ノ兩院会同ノ議

ニ於テ(創議シタル)修正スヘキ個条ヲ明書シ法律ヲ以テ該案ヲ

討議スヘシト宣言ス此法律ヲ布告シタル後国会ノ兩院ハ解散ス

第、条 新ニ選任選挙セラレタル兩院ハ其議案ヲ討議シテ決ヲ取
ル(ス)

三十一

前号所載軍人勅諭と西周の憲法草案(二)正誤表

頁	段	行	誤	正
六九	上	四	条ニ 推薦をし	条ニ 推薦を(せ)し
"	"	一四	国土(域)并ニ人民	国土(域)并ニ人民
"	下	一五	第一章	第一章
"	"	一六	法律ニ於テ	法律ニ於テ
七一	下	九	自今	自今
七三	下	七	柄スルノ際ニ在リテ	柄スルノ際ニ在リテ
"	"	一二	還(反)	還(反)
"	"	"	第	第
七五	"	一	海年改制	毎年改制
七八	上	一三	第、条	第、条
"	下	一六	有リ(ス)	有リ(ス)
八〇	上	八	其大綱	其大綱
"	下	五	第、条	第、条
八一	上	九	国会閉期	国会閉期
"	"	一〇	〔其事以下日ハ迄	〔其事以下者ハ迄